



平成 28 年度地質調査総合センター新規採用職員研修報告

川畑大作（産総研 地質調査総合センター研究戦略部 研究企画室）

地質調査総合センター（以下、GSJ）では、新規採用の職員を中心に研究の円滑な遂行を目的として新規採用職員研修を毎年 4 月に行っています。研修内容は、GSJ の歴史やミッション、4 ユニット（地質情報研究部門、地圏資源環境研究部門、活断層・火山研究部門、地質情報基盤センター）の紹介、調査におけるコンプライアンスや安全管理、共同利用施設紹介、事務手続き、野外巡検、研究発表会など多岐にわたっています。今年度は常勤職員 10 名ポスドク研究員 8 名、計 18 名が参加しました（写真 1）。ここでは、納谷（2015）同様、平成 28 年度の新規採用職員研修について報告します。

研究発表会

4 月 13 日から 4 月 15 日までの諸研修の後、4 月 18 日に新規採用職員による研究発表会を行いました。発表形式は昨年度に引き続きポスドク研究員の発表をポスターセッションとしました。今年度は、常勤職員による口頭発表 9 件とポスドク研究員によるポスター発表 8 件になりました。今年度は発表会の進行は新規採用職員で行い、ポスター発表では 2 分間の概要説明を挟む新たな試みを行いました。以下は当日の発表者と発表題目です。発表内容の多

様性からもわかる通り GSJ の研究分野は多岐にわたっています。研究分野に合わせて研究ユニットが構成されていますが、毎年恒例になっているこの研究発表会は全ての研究ユニットが参加する数少ない機会です。さらに、GSJ 新人としての自己紹介の機会でもあることから、普段の学会などでの発表とは異なる緊張感がありつつも活発な議論が行われていました。

口頭発表

伊尾木圭衣（活断層・火山研究部門 海溝型地震履歴研究グループ）津波堆積物から求めた 17 世紀北海道巨大地震の断層モデル構築

草野有紀（活断層・火山研究部門 火山活動研究グループ）陸上地質調査でわかってきた初期島弧火山の発達史
杉崎彩子（地質情報研究部門 海洋地質研究グループ）海底堆積物の光ルミネッセンス年代測定

伊藤 剛（地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ）ペルム紀放射虫の古生物地理：*Pseudotormentus* 属の不均一分布

佐藤善輝（地質情報研究部門 平野地質研究グループ）浜松平野周辺および足柄平野における完新世後期の地



写真 1 平成 28 年度 GSJ 新規採用職員研修に参加されたみなさん（敬称略）。
前列左から大谷真紀子、浜橋真理、大槻静香、三好陽子、伊尾木圭衣、杉崎彩子、金子雅紀
後列左から、木下佐和子、高橋幸士、佐藤善輝、伊藤 剛、阿部朋弥、草野有紀、佐藤 稔
窓左から、中村淳路、岩崎晋弥、綱澤有輝、後藤宏樹

形発達過程の復元

後藤宏樹（地圏資源環境研究部門 CO₂ 地中貯留研究グループ）CO₂ の浸入に伴う帽岩の連続的な破壊とシール能力低下の可能性評価

三好陽子（地圏資源環境研究部門 地圏化学研究グループ）粘土鉱物資源であるベントナイトの性能評価手法の研究

金子雅紀（地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループ）メタン生成場と規模を理解する

高橋幸士（地圏資源環境研究部門 燃料資源地質研究グループ）新生代石炭起源炭化水素ガスの排出タイミング推定法の開発

ポスター発表

中村淳路（活断層・火山研究部門 海溝型地震履歴研究グループ）宇宙線照射生成核種に基づく木曾山脈の隆起・侵食史

大槻静香（活断層・火山研究部門 大規模噴火研究グループ）表面張力による発泡マグマの組織緩和実験：火道増圧過程への意義

佐藤 稔（活断層・火山研究部門 水文地質研究グループ）真三軸応力下で累進変形する堆積岩の透水異方性の評価に関する研究

浜橋真理（地質情報研究部門 地球物理研究グループ）コスタリカ沖前弧ウェッジの固結を支配する隆起過程と沸石沈殿

木下佐和子（地質情報研究部門 地球物理研究グループ）レシーバ関数解析からみた富士山下の地震波低速度領域の分布

阿部朋弥（地質情報研究部門 海洋地質研究グループ）陸上の津波堆積物の粒度・層厚分布を用いた津波の水利条件の逆解析法

岩崎晋弥（地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ）海洋酸性化が浮遊性有孔虫の殻形成に与える影響の評価 ～マイクロフォーカス X 線 CT を用いた有孔虫殻状態の定量化～

綱澤有輝（地圏資源環境研究部門 鉱物資源研究グループ）資源処理の高度化を目的とした離散要素法の応用に関する研究

野外巡検

4月19日には、野外巡検が行われました。巡検では地質情報研究部門平野地質グループの中島 礼氏と地質情報研究部門地殻岩石研究グループの佐藤大介氏が案内を担当し、新規採用職員14名が参加しました。巡検コースは昨年と同様、つくば周辺の代表的な地質を見学するツアーで、今年も茨城県稲敷郡美浦村馬掛^{みほまがき}の最終間氷期の浅海成層を観察するところから始まりました。中島氏による露頭の説明を受けながら、参加者はそれぞれ堆積環境や地殻変動について考察し議論を行いました(写真2)。昼食を挟んでJR 稲田駅(茨城県笠間市)に隣接する「石の百年館」を見学しました。この施設で茨城県の石である花崗岩を始めとした様々な石材を見学した後、採石を行っている、(株)想石の採石場に移動しました。ここは通称「稲田石」と呼ばれる花崗岩を採石しており、モニュメント作品も展示されています(写真3)。

続いて、南下して「真壁トライアルランド」にて花崗岩



写真2 茨城県稲敷郡美浦村馬掛での露頭観察の様子。



体の貫入関係について観察を行うとともに佐藤氏による解説があり、貫入の順序に関する議論を行いました。筑波山方面へ移動し筑波山の地形と地質の概要について説明を受けた後、筑波山梅林にて関東平野の地形観察を行いました。最終観察地点のつくば市上菅間^{かみすがま}では桜川の河原の露頭観察を行いました。堆積している礫層について観察があり、その起源や環境変遷について解説がありました(写真4)。

まとめ

本報告ではGSJの新規採用職員研修について述べました。GSJの研修の前には、約2週間の産総研全体の研修があり、新規採用職員は1ヶ月弱を研修で過ごすことになっています。一刻も早く研究に専念したい時期でもありますが、長い目で見れば、組織概要からアウトリーチまでを非常に短期間で学ぶことができたのではないのでしょうか。また、研究発表会では、GSJの様々な研究分野の専門家に研究内容を聞いてもらい、別な視点から自分の研究を見る

良い機会になります。地質標本館の説明員研修や巡検などでは、自分の研究分野についてわかりやすく説明することの難しさ、楽しさを再認識していただけたのではないかと思います。これらの経験はなかなか得がたいものです。

最後に、研修を実施するにあたり、各研究ユニット、第七事業所研究業務推進室の皆様には講義や見学、実習など研修の実施に多大なご協力をいただきました。また巡検においては中島 礼氏、佐藤大介氏に企画、準備、案内などご協力をいただきました。前任者の納谷友規氏には研修全般に関わるアドバイスをいただきました。円滑な研修実施に協力していただいた新規採用職員の皆様も含め、研修にご協力いただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

文献

納谷友規(2015)平成27年度地質調査総合センター新規採用職員研修報告。GSJ地質ニュース, 4, 214-216.



写真3 野外巡検の集合写真。



写真4 茨城県つくば市上菅間での露頭観察の様子。

首都をささえる 地質情報展2016とうきょう 大地のしくみ

2016年9月
10(土)・11(日)・12(月)

時間 10:00～17:00
(12日は16:00終了)

会場 日本大学文理学部3号館
世田谷区桜上水 3-25-40

入場無料

東京都および周辺地域の地質をはじめ、地盤、地震、火山、資源などに関する最新の「地質学」の成果をわかりやすく展示・解説します。

小学校入学前のお子様から大人まで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな「体験学習コーナー」を用意しており、実験や実演を通じて「地質学」をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展2016とうきょう」にご来場ください。

同時開催 (日本地質学会主催)

市民講演会「ジオハザードと都市の地質学」
9月11日(日) 14:00～16:30

小さな Earth Scientist のつどい
第14回 小、中、高校生徒「地学研究」発表会
9月11日(日) 9:00～15:30

「地質情報展2016とうきょう 首都をささえる大地のしくみ」は、平成28年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

主催：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
一般社団法人 日本地質学会

共催：日本大学文理学部

後援：東京都、世田谷区、世田谷区教育委員会、全国地質調査業協会連合会、
日本ジオパークネットワーク、下高井戸商店街振興組合

【問い合わせ先】

産業技術総合研究所 地質調査総合センター
TEL：029-861-3540
Email：johoten2016jikko-ml@aist.go.jp
URL：https://www.gsj.jp/event/johoten/

